

平成 20 年度「児童生徒の学力向上を図るための調査報告書」(東京都教育委員会 平成 21 年 7 月)から見た
課題及び指導方法改善のポイント

平成21年8月3日

江戸川区立平井東小学校

観点ごとの正答率				観点ごとの結果と分析
評価の観点	東京都	江戸川区	平井東小	
問題を発見する力	81.5%	81.3%	97.7%	<ul style="list-style-type: none"> 本校の平均正答率は63.1%であり、東京都、江戸川区ともに上回る結果となった。出題数8問中、正答率が70%を下回る問題は6問あり、東京都や江戸川区の傾向と同じであった。 「問題を発見する力」は1問の出題で、平均正答率は97.7%である。 「見通す力」は1問の出題で、平均正答率は69.8%である。 「適用・応用する力」は4問の出題で、平均正答率は54.1%である。 「意思決定する力」は1問の出題で、平均正答率は53.5%である。 「表現する力」は1問の出題で、平均正答率は67.4%である。 ほとんどの領域で東京都や江戸川区を上回る結果となった。東京都と江戸川区共に下回った領域は「表現する力」。「表現する力」の向上が課題となる。本校として、国語での「話す力」「書く力」、各教科に渡って、コミュニケーション能力の育成に努めていきたい。 「問題を発見する力」「見通す力」は大幅に上回った。特に、「問題を発見する力」は100%に近い正答率であった。
見通す力	59.6%	58.5%	69.8%	
適用・応用する力	54.5%	52.2%	54.1%	
意思決定する力	50.6%	47.5%	53.5%	
表現する力	72.1%	70.7%	67.4%	
総合	60.2%	58.3%	63.1%	

	結果の分析						指導方法改善のポイント
1 「問題を見える力」		1	2	3(正答)	4	その他	無解答
	東京都	2.7%	2.3%	81.5%	13.2%	0.2%	0.1%
	江戸川区	2.6%	2.6%	81.3%	13.2%	0.2%	0.1%
	平井東小	0.0%	0.0%	97.7%	2.3%	0.0%	0.0%
	<p>正答は、選択肢3であり、97.7%の正答率である。誤答の反応率が高いのは選択肢4で、2.3%である。誤答の児童は、全員4であった。誤答の要因として、エの「川に下りる階段」について、30年前と現在を反対に読み取ったと考えられる。問題は発見できて、きちんと読み取る力が不足していると考察する。</p>						<p>【各教科や総合的な学習の時間の学習において】</p> <p>1 児童が複数の情報を観点に沿って比較・関連付けながら読み取る活動の充実を図る</p> <p>事象を読み取る「観点」を明確にして、その「観点」に沿って複数の事象を比較・関連付けながら共通点や相違点を読み取るように指導する。また、読み取りの過程に置いて、事象に潜む矛盾点や不明瞭な点などについての児童の気づきを教師が意図的に引き出し、問題意識を喚起するように指導する。</p> <p>2 設定する問題の意義について吟味・検討する活動の充実を図る</p> <p>児童一人一人が問題を設定した後に、すぐに解決する活動に入るのではなく、グループや学級全体で児童一人一人が考えた問題について情報交換を行い、問題の内容やその価値について検討した後、再度問題を練り直して、追求する問題を決定するような活動を設定していく。</p>
2 「適用・応用する力」		1	2(正答)	3	4	その他	無解答
	東京都	11.2%	59.6%	19.1%	9.1%	0.5%	0.5%
	江戸川区	11.5%	58.5%	19.6%	9.5%	0.4%	0.5%
	平井東小	9.3%	69.8%	11.6%	9.3%	0.0%	0.0%
	<p>正答は、選択肢2であり、69.8%の正答率である。誤答の中で最も多かったのは選択肢3の11.6%であるが、選択肢1(9.3%) 選択肢3(11.6%) 選択肢4(9.3%)と、どの解答も同じくらいの誤答率である。誤答の要因として、問題の意味がきちんと分かっていないこと、計算ミスなどが考えられる。</p>						<p>【各教科や総合的な学習の時間の学習において】</p> <p>1 結果を予想する習慣を身につけるための学習の改善・充実を図る</p> <p>例えば、第3学年理科の「植物の成長と体のつくり」の学習では、ホウセンカの種まきをする際に、芽が出る様子を予想して絵に表す活動を設定する。実際に絵に表してみると、児童は、植物の芽が出た様子について、よく分かっていないことに気付く。その結果として、「芽が出た様子を確かめてみよう。」といった観察への意欲が高まっていくものと考えられる。</p> <p>2 結果の予想についての情報交換を行う学習の改善・充実を図る</p> <p>情報交換を行うことによって、児童は、自分の予想の立て方やその妥当性について振り返ることができるとともに、友達予想を聞いて、友達のよいところを学ぶこともできる。この経験を積み重ねていくことが大切である。</p>

	結果の分析							指導方法改善のポイント																												
3 〔適用・応用する力〕	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4(正答)</th> <th>その他</th> <th>無解答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東京都</td> <td>15.9%</td> <td>10.3%</td> <td>15.5%</td> <td>58.0%</td> <td>0.2%</td> <td>0.2%</td> </tr> <tr> <td>江戸川区</td> <td>16.5%</td> <td>11.1%</td> <td>17.2%</td> <td>54.7%</td> <td>0.2%</td> <td>0.3%</td> </tr> <tr> <td>平井東小</td> <td>32.6%</td> <td>14.0%</td> <td>4.7%</td> <td>48.8%</td> <td>0.0%</td> <td>0.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>正答は、選択肢4で、48.8%の正答率であった。東京都・江戸川区と比べ、平均を下回った問題である。誤答の反応率は選択肢1(32.6%) 選択肢2(14.0%) 選択肢3(4.7%)であった。問題は、懐中電灯がつかなくなった原因を三回の試しの中から探すもの。選択肢の中にすでに消去されている条件を蒸しかえす内容のものがあ、それに過剰反応した様子が伺える。考えすぎによる誤答と考えられる。</p>								1	2	3	4(正答)	その他	無解答	東京都	15.9%	10.3%	15.5%	58.0%	0.2%	0.2%	江戸川区	16.5%	11.1%	17.2%	54.7%	0.2%	0.3%	平井東小	32.6%	14.0%	4.7%	48.8%	0.0%	0.0%	<p>【理科の学習において】</p> <p>1 観察・実験の目的や条件に即してその方法を考える学習の改善・充実を図る</p> <p>児童の発達段階や実態を踏まえて次のような段階的な指導を行う。①教師が観察や実験の目的及びいくつかの方法を示し、児童が選択できるようにする。②教師が方法の大筋を示し、方法の一部を児童に考えることができるようにする。③②について、児童が考える部分を増やしていく。④方法の大半を考え、情報交換を通して、方法を決定していく。</p> <p>2 観察・実験の結果を考慮する学習の改善・充実を図る</p> <p>3年理科「物質・エネルギー」中の「電気の流れ」からの問題。懐中電灯がつかなくなった原因を3回の試行により特定するという発展的な内容である。半数以上の児童にとって難解だったことは、正答率48.8%という結果からも明らかである。</p> <p>今後の指導にあたっては、基礎・基本を押さえるとともに、実験したことから児童がどう結果を導き出させるか、その過程をしっかりと指導していくことが必要であろう。思考・判断する活動を多く設定していきたい。児童は、実際にものにふれたり、ものを作ったりする経験が多くない。だから、授業では、回路を作って電気を流したり、逆にスイッチを切ったり、ソケットの豆電球をゆるめたりの活動は大事である。児童には教材に思う存分ふれさせ、自由試行させる経験を多くもたせたい。また、テスター作りや、灯台作りなどの「ものづくり」も、児童の生活経験を豊かにするとともに、生きて働く学力となっていくと思われる。</p>
		1	2	3	4(正答)	その他	無解答																													
東京都	15.9%	10.3%	15.5%	58.0%	0.2%	0.2%																														
江戸川区	16.5%	11.1%	17.2%	54.7%	0.2%	0.3%																														
平井東小	32.6%	14.0%	4.7%	48.8%	0.0%	0.0%																														
4 〔適用・応用する力〕	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1(正答)</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>その他</th> <th>無解答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東京都</td> <td>47.5%</td> <td>13.6%</td> <td>26.6%</td> <td>12.1%</td> <td>0.1%</td> <td>0.2%</td> </tr> <tr> <td>江戸川区</td> <td>49.2%</td> <td>15.3%</td> <td>21.3%</td> <td>13.9%</td> <td>0.1%</td> <td>0.3%</td> </tr> <tr> <td>平井東小</td> <td>44.2%</td> <td>11.6%</td> <td>34.9%</td> <td>9.3%</td> <td>0.0%</td> <td>0.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>正答は、選択肢1で、44.2%の正答率である。この問題も、東京都・江戸川区の平均を下回っている。誤答の反応率が最も高かったのが、選択肢3で34.9%である。誤答の要因としては、江戸切子についてわかったことの三点を十分に理解していなかったことが考えられる。また、問題では、調べて分かったことは質問しないとあり、問題の読解力も不十分であったと思われる。</p>								1(正答)	2	3	4	その他	無解答	東京都	47.5%	13.6%	26.6%	12.1%	0.1%	0.2%	江戸川区	49.2%	15.3%	21.3%	13.9%	0.1%	0.3%	平井東小	44.2%	11.6%	34.9%	9.3%	0.0%	0.0%	<p>【国語科の学習において】</p> <p>1 目的を明確にして話題に沿った話し合いとなるように指導の改善・充実を図る</p> <p>児童に話し合いを進行させる経験を十分に積ませるとともに、話題をしっかりとつかませる。また、話し合いの途中で内容にズレがおこらないように司会・進行が確かめる場面をつくるなど、進行の役割についても習熟を図る。</p> <p>2 ルールを示し、見通しをもって話し合うことができる指導の改善・充実を図る</p> <p>日常の話し合いの場面で、壁面などに話し合いのルールを示しておいたり、話題から話し合いがそれないように、議案・進行の方法などをプリントや黒板に示していくなどの指導の工夫が考えられる。</p>
		1(正答)	2	3	4	その他	無解答																													
東京都	47.5%	13.6%	26.6%	12.1%	0.1%	0.2%																														
江戸川区	49.2%	15.3%	21.3%	13.9%	0.1%	0.3%																														
平井東小	44.2%	11.6%	34.9%	9.3%	0.0%	0.0%																														
5 〔意思決定する力〕	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1</th> <th>2(正答)</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>その他</th> <th>無解答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東京都</td> <td>16.1%</td> <td>47.7%</td> <td>21.8%</td> <td>13.7%</td> <td>0.3%</td> <td>0.3%</td> </tr> <tr> <td>江戸川区</td> <td>15.1%</td> <td>43.8%</td> <td>24.6%</td> <td>15.8%</td> <td>0.4%</td> <td>0.4%</td> </tr> <tr> <td>平井東小</td> <td>14.0%</td> <td>48.8%</td> <td>32.6%</td> <td>4.7%</td> <td>0.0%</td> <td>0.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>正答は、選択肢2で、48.8%である。誤答の中で最も反応率が高いのは、選択肢3で、32.6%の反応率である。この誤答の要因としては、東西南北の方位は理解しているが、等高線の意味を理解していないものと考えられる。二番目に多かった誤答は選択肢1(14.0%)で、等高線は理解しているが、東西南北の方位を十分理解していない児童も多数いた。今後、方位と等高線をしっかりとおさえていく必要がある。</p>								1	2(正答)	3	4	その他	無解答	東京都	16.1%	47.7%	21.8%	13.7%	0.3%	0.3%	江戸川区	15.1%	43.8%	24.6%	15.8%	0.4%	0.4%	平井東小	14.0%	48.8%	32.6%	4.7%	0.0%	0.0%	<p>【社会科の学習において】</p> <p>1 方位や等高線の見方について理解させるための指導の工夫を図る</p> <p>方位については、社会的現象を観察、調査したことを白地図に記入する際に理解し活用できるように指導する。また、等高線の見方については、「等高線が混んでいる所は傾きが急であること」や「等高線の間が広い所は傾きが穏やかであること」のイメージがもてるように立体模型等の活用を通して指導するなど、工夫していく。</p> <p>2 地図上に示された情報を活用して読み取る力を身につける指導の充実を図る</p> <p>縮小を用いて、地図上のある地点からある地点までの長さを測って実際の距離をとらえる技能については、小学校段階では社会科以外の教科で学習する機会はない。そのため、社会科においてこのような基礎的な技能を習得させ、日常生活において実際に活用できるようにしていくことが大切である。</p>
		1	2(正答)	3	4	その他	無解答																													
東京都	16.1%	47.7%	21.8%	13.7%	0.3%	0.3%																														
江戸川区	15.1%	43.8%	24.6%	15.8%	0.4%	0.4%																														
平井東小	14.0%	48.8%	32.6%	4.7%	0.0%	0.0%																														

	結果の分析						指導方法改善のポイント																																																									
6 〔適応・応用する力〕	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3(正答)</th> <th>4</th> <th>その他</th> <th>無解答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東京都</td> <td>25.9%</td> <td>11.1%</td> <td>50.6%</td> <td>11.9%</td> <td>0.1%</td> <td>0.2%</td> </tr> <tr> <td>江戸川区</td> <td>27.8%</td> <td>12.2%</td> <td>47.5%</td> <td>11.9%</td> <td>0.2%</td> <td>0.3%</td> </tr> <tr> <td>平井東小</td> <td>27.9%</td> <td>7.0%</td> <td>53.5%</td> <td>11.6%</td> <td>0.0%</td> <td>0.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>正答は、選択肢3で、53.5%の正答率である。誤答の中で最も反応率が高いのは、選択肢1で、27.9%の反応率である。この誤答の要因としては、せんとく物を干す時間が5時間必要なのに対して、4時間半しかとっておらず、問題の中から解決するために必要な条件を選択することができなかったことによるものと考えられる。</p>							1	2	3(正答)	4	その他	無解答	東京都	25.9%	11.1%	50.6%	11.9%	0.1%	0.2%	江戸川区	27.8%	12.2%	47.5%	11.9%	0.2%	0.3%	平井東小	27.9%	7.0%	53.5%	11.6%	0.0%	0.0%	<p>【各教科や総合的な学習の時間の学習において】</p> <p>1 必要な情報を読み取って活用する学習の充実を図る 例えば、第5学年社会科の「我が国の主な食料生産」の学習において、農作物や食料生産物の分布図や土地利用図、農作物の生産量のグラフから、それぞれの傾向や特徴を読み取る活動やそれぞれの図やグラフを比較したり、関連付けたりする活動を設定することが考えられる。</p> <p>2 児童自らが活動の計画を立てる学習の充実を図る 例えば、中学年の特別活動における係活動では、児童自らが創意工夫しながら活動の計画を立てられるようにする。係活動の目的を明確にし、それぞれの考えや願いを検討し、児童が主体的に取り組めるように指導していく。</p>																													
		1	2	3(正答)	4	その他	無解答																																																									
東京都	25.9%	11.1%	50.6%	11.9%	0.1%	0.2%																																																										
江戸川区	27.8%	12.2%	47.5%	11.9%	0.2%	0.3%																																																										
平井東小	27.9%	7.0%	53.5%	11.6%	0.0%	0.0%																																																										
7 〔見通す力〕	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="4">1. 3. 6を全く含んでいない</th> <th rowspan="2">左記以外で Aが5</th> <th rowspan="2">Aが6 24.78</th> </tr> <tr> <th>5-7-4-2 5-4-2-8 (正答)</th> <th>5-7-2-8 (正答)</th> <th>5-7-2-4 5-2-8-4 (正答)</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東京都</td> <td>69.5%</td> <td>2.4%</td> <td>0.2%</td> <td>8.4%</td> <td>4.4%</td> </tr> <tr> <td>江戸川区</td> <td>67.6%</td> <td>2.8%</td> <td>0.3%</td> <td>8.5%</td> <td>5.2%</td> </tr> <tr> <td>平井東小</td> <td>65.1%</td> <td>2.3%</td> <td>0.0%</td> <td>16.3%</td> <td>4.7%</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="3">1. 3. 6のいずれか1つ以上含む</td> <td rowspan="2">その他</td> <td rowspan="2">無解答</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Aが5</td> <td>Aが6</td> <td>Aが5.6以外</td> </tr> <tr> <td>東京都</td> <td>5.3%</td> <td>5.2%</td> <td>3.5%</td> <td>0.6%</td> <td>0.5%</td> </tr> <tr> <td>江戸川区</td> <td>5.7%</td> <td>5.0%</td> <td>3.9%</td> <td>0.5%</td> <td>0.5%</td> </tr> <tr> <td>平井東小</td> <td>4.7%</td> <td>4.7%</td> <td>0.0%</td> <td>2.3%</td> <td>0.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>正答は、上記の表に示すとおり3つのパターンがあり、正答率は67.4%である。誤答は大きく2つに分類でき、1つは、内容は適切だが、文の順序が適切でなく、文章を構成する力に課題がある。もう一つは、問題の図を読み取り、示されている内容を忠実に示す力に課題がある。</p>							1. 3. 6を全く含んでいない				左記以外で Aが5	Aが6 24.78	5-7-4-2 5-4-2-8 (正答)	5-7-2-8 (正答)	5-7-2-4 5-2-8-4 (正答)		東京都	69.5%	2.4%	0.2%	8.4%	4.4%	江戸川区	67.6%	2.8%	0.3%	8.5%	5.2%	平井東小	65.1%	2.3%	0.0%	16.3%	4.7%		1. 3. 6のいずれか1つ以上含む			その他	無解答		Aが5	Aが6	Aが5.6以外	東京都	5.3%	5.2%	3.5%	0.6%	0.5%	江戸川区	5.7%	5.0%	3.9%	0.5%	0.5%	平井東小	4.7%	4.7%	0.0%	2.3%	0.0%	<p>【各教科や総合的な学習の時間の学習において】</p> <p>1 情報から事実を読み取り、順序よく表現する指導の改善・充実を図る 説明する場面を適切にとらえ、説明する事柄を整理して発表できるように指導することが大切である。例えば、グラフや図などの資料を用いて調べて分かったことを説明する場面において、どのような順序で説明すればよいか検討させたり、説明の準備の前に、説明するための順序について考えさせたりする。</p> <p>2 説明する内容を整理する指導の改善・充実を図る 相手に物事を説明する際には、相手の立場や状況、目的に応じて、説明する内容を整理して表現することが大切である。例えば、社会科の学習で調べたことをまとめる場面において、「事実」と「感じたこと・考えたこと」を区別しているかどうかについて確かめる活動を設定することなどが考えられる。</p>
		1. 3. 6を全く含んでいない				左記以外で Aが5		Aが6 24.78																																																								
5-7-4-2 5-4-2-8 (正答)		5-7-2-8 (正答)	5-7-2-4 5-2-8-4 (正答)																																																													
東京都	69.5%	2.4%	0.2%	8.4%	4.4%																																																											
江戸川区	67.6%	2.8%	0.3%	8.5%	5.2%																																																											
平井東小	65.1%	2.3%	0.0%	16.3%	4.7%																																																											
	1. 3. 6のいずれか1つ以上含む			その他	無解答																																																											
	Aが5	Aが6	Aが5.6以外																																																													
東京都	5.3%	5.2%	3.5%	0.6%	0.5%																																																											
江戸川区	5.7%	5.0%	3.9%	0.5%	0.5%																																																											
平井東小	4.7%	4.7%	0.0%	2.3%	0.0%																																																											
8 〔表現する力〕	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4(正答)</th> <th>その他</th> <th>無解答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東京都</td> <td>5.7%</td> <td>12.2%</td> <td>15.9%</td> <td>64.7%</td> <td>0.5%</td> <td>1.0%</td> </tr> <tr> <td>江戸川区</td> <td>6.9%</td> <td>13.6%</td> <td>16.5%</td> <td>61.2%</td> <td>0.6%</td> <td>1.2%</td> </tr> <tr> <td>平井東小</td> <td>2.3%</td> <td>7.0%</td> <td>11.6%</td> <td>74.4%</td> <td>0.0%</td> <td>4.7%</td> </tr> </tbody> </table> <p>設問は、「家庭で使われる水の量」について、いろいろな資料をもとにして、4人家族の自分の家で、一日に使う水の量がどのくらいなのかを計算して表にまとめたものである。家庭で一日に使う水の量の合計を一杯200mlの浴槽で何杯分になるかを換算し、正しい番号を選ぶものである。正答率は74.4%と都や区を上回った。問題の意図が分からず、何を答えてよいか分からないといった無解答も約5%となっている。これらの要因としては、3種類の単位が提示されているため、家で一日に使う水の量の合計を求める際に、どの単位を活用すればよいか判断ができなかったことによるものと考えられる。</p>							1	2	3	4(正答)	その他	無解答	東京都	5.7%	12.2%	15.9%	64.7%	0.5%	1.0%	江戸川区	6.9%	13.6%	16.5%	61.2%	0.6%	1.2%	平井東小	2.3%	7.0%	11.6%	74.4%	0.0%	4.7%	<p>【算数科の学習において】</p> <p>1 筋道を立てて考える力を培う指導の改善・充実を図る 例えば、この問題を解くためには、考えの筋道を明確にする。この場面は、①票に示された水の量を「1」の単位にそろえて、計算する、②「1」にそろえた数値を、さらに浴槽「200l」のいくつ分に置き換えるという過程をたどることが考えられる。このように、筋道を明らかにして段階的に考えられるよう、指導の工夫を図る。</p> <p>2 情報を整理して、問題を解決する指導の改善・充実を図る ①目的を明確にし、それに沿った資料を収集する、②資料を整理し、表やグラフに表して資料の特徴や傾向を読み取る、③特徴や傾向に着目して事柄を判断したり、その理由を説明したりするといった一連の活動を意図的に取り入れることが大切である。</p>																													
		1	2	3	4(正答)	その他	無解答																																																									
東京都	5.7%	12.2%	15.9%	64.7%	0.5%	1.0%																																																										
江戸川区	6.9%	13.6%	16.5%	61.2%	0.6%	1.2%																																																										
平井東小	2.3%	7.0%	11.6%	74.4%	0.0%	4.7%																																																										

